

この文書は、聞こえない方、聞こえにくい方のために音楽の内容を説明しているテキストです。

音楽は、曲によってピアノと打楽器で演奏され、音楽に合わせて舞台上の映像が様々に変化します。

Visual Harmony for All

**～クラシック音楽とデジタルアートが織りなす、新たな
芸術体験～**

実施日 2025年 11 月 8 日(土曜日)

時間 午後3時～午後4時 休憩なし

会場 東京文化会館 小ホール

プログラム

1. J.S.バッハ

イタリア協奏曲 ヘ長調 より 第 1 楽章(ピアノ・ソロ:角野)

2. ドヴォルザーク

スラヴ舞曲第 1 番 ハ長調(デュオ・1 台 4 手:黒沼・角野)

3. ファリャ

バレエ音楽『恋は魔術師』より「火祭りの踊り」(デュオ・2 台 4 手:角野・黒沼)

4. ラヴェル

水の戯れ(ピアノ・ソロ:黒沼)

5. サン＝サーンス

『動物の謝肉祭』より 第 7 曲「水族館」(デュオ・2 台 4 手+打楽器:角野・黒沼・齋藤)

6. ドビュッシー

『ベルガマスク組曲』より「月の光」(ピアノ・ソロ:角野)

7. ラヴェル

ボレロ(デュオ・2 台 4 手+打楽器:角野・黒沼・齋藤)

音楽の説明

1. J.S.バッハ

イタリア協奏曲 ヘ長調 より 第 1 楽章(ピアノ・ソロ:角野)

チェンバロのために書かれた曲。

バッハは1台のチェンバロで強弱を使い分けながら、合奏協奏曲の形式を再現した。

独奏と総奏のパートがある。

オーケストラが合奏しているような華やかな雰囲気で幕が上がる。

右手のメロディーが弾むようなリズムを奏でる。

このテーマは繰り返し登場する。

左手にメロディーが移る。

次第に両手ともリズムが細くなり、1 回目のクライマックスを迎える。

音量が小さくなり、独奏パートになる。

先ほどの総奏パートは打って変わり、囁くような雰囲気になる。

右手の細かいリズムが特徴的。

総奏パート。

最初のテーマが快活な雰囲気で演奏される。

短調へと雰囲気が徐々に変化していく。

明るかった空に、黒い雲があっという間に立ち込めていくような印象。

一瞬、嵐の前の静けさが訪れる。

短調のまま、エネルギッシュな雰囲気に変化する。

激しい雨が襲ってくるようなイメージ。

細やかに繰り返される右手のトリル(隣り合う音同士を素早く交互に弾く奏法)が、悲しげで繊細な旋律を奏でる。

快活な雰囲気の大合奏パートに戻る。冒頭のテーマが再登場する。

右手がトリルを細かく刻む。

左手はバッハ特有のバロック音楽の大合奏で旋律を奏でながら、うねうねと上行や下行を続ける。

右手のトリルが終わると、右手と左手が掛け合うようにして上行し、ゆっくりした盛り上がりを見せる。

独奏パートになり、静かで穏やかな大合奏が訪れる。左手が和音のスタッカートを優しく刻みながら、下行する。右手のトリルと左手の細やかなリズムが、大合奏パートへの助走になる。

大合奏パートが目覚めたように現れ、華やかな大合奏で次の独奏パートを呼び込む。

独奏パート。右手のメロディーが、上行したり下行したり、くるくると表情を変えながら、音楽の解決に向かっていく。左手はそれを支えるように進行する。

冒頭の華やかなテーマがそっくりそのまま再登場する。全く同じ形で出てくるのは、最後のこの部分だけである。このテーマが終わると、音楽も幕を閉じる。

2. ドヴォルザーク

スラヴ舞曲第1番 ハ長調(デュオ・1台4手:黒沼・角野)

作曲家ドヴォルザークの故郷、ボヘミアの民俗舞曲「フリアント」。速いテンポで華やかに演奏される。変則的なリズムが特徴。

華やかなテーマで音楽が始まる。踊りだしたくなるような軽快さと、それでいて地をしっかりと踏み締めるような厚みのある和音で、フリアントのリズムが刻まれる。

音量が小さくなるが、明るさと軽快さはそのままに、流れるようなメロディーに変わる。

最初のテーマが少しずつ織り込まれ、次第に盛り上がりが見えてくる。テーマに呼び込まれるようにして、音量も増していく。

曲のテーマが再び登場し、もう一度、つかの間の盛り上がりを見せる。

音量が突然小さくなり、テーマが静かに演奏される。音楽が次第に遠のくように弱くなり、消えかかる。このテーマを締めくくるように、大きな音量の和音が鳴る。

曲の雰囲気の変化し、流れるような3拍子に乗せて、新たなメロディーが現れる。この曲の2つ目のテーマである。

メロディーが低いパートに移って演奏される。一番上の旋律は、上下にくねくねと蛇行するようにメロディーを彩っている。

風船が膨らんでいくように、メロディーが次第に上のパート

に移りながら、穏やかな盛り上がりを見せる。

再び下のパートにメロディーが移り、上のパートは上行と下行を繰り返しながら、下のメロディーを彩る。

同じメロディーが上のパートに移り、高い音域で華やかに奏でられ、音楽が膨らんでいくように次第に盛り上がりを見せる。

最初のテーマが帰ってくる。人々が軽快に踊るような情景が浮かぶ。

前半と同様、最初のテーマが少しずつ織り込まれ、次第に盛り上がりに戻る。テーマに呼び込まれるようにして、音量も増していく。

踊りが遠のいていくように音量が小さくなる。この曲の 2 つ目のテーマが再び登場し、穏やかに奏でられ、優しい時間が流れる。

2 つ目のテーマが次第に音量を増していく。クライマックスを迎えると、突如 1 つ目のテーマが現れ、音楽が華やかに締めくくられる。

3. ファリャ

バレエ音楽『恋は魔術師』より「火祭りの踊り」(デュオ・2台4手:角野・黒沼)

細かい音の粒が連なり、音は大きくなったり小さくなったりしながら揺らめく。
メラメラ燃える炎のうねりを表現している。

細かい音の上に、メロディーが浮かび上がる。
それは呪文のように力強く歌われる。

第2ピアノが一定のリズムを刻みはじめ、ダンサーの足音のように、舞のリズムが生まれていく。

第1ピアノが強い祈りのようなメロディを奏でる。

音楽はしだいに熱を増し、祈りは強い叫びとなりながら、情熱的な火祭りの踊りが続く。

音楽に静けさが戻り、炎のゆらめきを思わせる細かな音が続く。
冒頭のメロディーが繰り返される。

再びリズムが動き出し、火祭りの踊りはますます狂気を帯びていく。

音数が増え、音楽はより一層激しく速くなっていく。
炎は渦を巻き、エネルギーの高まりを見せる。

同じ和音が力強く何度も打ち鳴らされ、最後は燃え尽きるかのように、音楽は突然終わりを迎える。

4. ラヴェル

水の戯れ(ピアノ・ソロ:黒沼)

ラヴェルが作曲したこの曲は、最初から最後まで神秘的な雰囲気貫かれる。水がたゆたい、光を纏う様子が目に浮かぶようだ。

この曲の神秘的なテーマが、規則的なリズムとテンポの中で演奏される。右手は細かい音を刻み、左手は安定的なリズムでそれを支える。

盛り上がりした後、左手が低い音域で鐘のような和音を鳴らす。メロディーが左手に移り、オクターブで旋律を奏でる。

オクターブのメロディーを右手が引き継ぐようにして展開する。

怪しげな響きと共に、一気に高音域まで駆け上がる。左手がそれに追いかけるように跳躍する。

規則的なリズムが戻ってくる。両手がクロスされ、左手が右手よりも高い音域でメロディーを奏でたり、両手で交互に幻想的で美しいメロディーラインを紡いだりする。

右手の細かい音がきらきらと星のように降り注ぐ。左手はそれを受け止めるように動く。

妖艶な旋律が登場し、緊張が高まっていくようにじわじわと盛り上がりを見せる。

妖艶な雰囲気を纏ったまま、階段を駆け上がるように音域が上がっていく。音量も増してテンポもあがり、緊張感が増していく。

ぱつんと糸が切れるように、明るい響きの音が鳴り、音楽が最高潮を迎える。水が溢れだすようなイメージ。右手は鍵盤を上から下まで滑り下り、音の粒が上から降ってくる。

前半に出てきたリズムが再び登場する。そのリズムを基に、右手と左手の音が溶け合いながら、次第にテンポが落ちていき、音楽も落ち着きを見せる。

冒頭の印象的なメロディーが戻ってくるが、左手は最初よりも低い音を奏でている。より怪しげな雰囲気を纏い、夢を見ているような気持ちになる。

再び現れたメロディーも束の間に終わり、左手と右手が織りなす細やかな音のきらめきの中に消えていく。

左手がリズムとメロディーを奏で、右手は彷徨うような雰囲気で音を響かせる。

一瞬の静寂の後、ゆったりとしたテンポに変化し、音楽が消えゆくような雰囲気になる。

無の中に光が差し込むように、右手が優しく音の粒を奏で、左手は穏やかにこの曲を印象付けてきたメロディーを奏でる。

優しい光と温もりに包まれるような雰囲気で、音楽が幕を閉じる。

5. サン＝サーンス

『動物の謝肉祭』より 第 7 曲「水族館」(デュオ・2 台 4 手+打楽器:角野・黒沼・齋藤)

水面に反射する光のように、細やかな音がきらきらと瞬きながら流れていく。

グロッケン之音も一定の間隔で重なり、音楽にきらめきを加える。

音は鍵盤の上を彷徨っているかのように行き来し、幻想的な響きが漂う。

再び、きらきらと瞬く音型が現れ、ゆらめく水のような音楽が流れていく。

再び、彷徨うような音の流れに戻る。

きらきら瞬く音型が少し色を変えて現れる。

グロッケンが鍵盤を滑るように駆け上がり、音の粒が空間に広がっていく。

音楽は幻想的な広がりを見せ、どこが上でどこが下かも分からないような、夢の中のような感覚へ。

音はだんだんと遠ざかり、消えていく。

6. ドビュッシー

『ベルガマスク組曲』より「月の光」(ピアノ・ソロ:角野)

とても静かな音から始まる。

8分の9拍子の揺らぎの中で、「月の光」のテーマがゆっくりと響きながら進んでいく。

静まり返った夜空を、柔らかな月の光が少しずつ移ろっていくかのようだ。

和音の連打が続く。

自由な速さ(ルバート)で情感を込めて歌われる。

和音は厚みを増し、左右の音域の広がりも豊かになっていく。

感情がわずかに高まり、月明かりが湖面全体を包み込むような、満ちてゆく光の広がりが感じられる。

低い音域で穏やかに波打つ伴奏の上に、優美な旋律が紡ぎだされていく。

響きを変えながら漂い続ける音のうねりは、湖面に広がる波紋なのか、揺れ動く感情なのだろうか。

音は形を定めず、ただ光と影のあいだをたゆたっている。

冒頭の「月の光」のテーマが、色を変えて再び現れる。

メロディーは高い音域で鳴り、より静かに、柔らかく流れていく。

響きは次第に薄れ、音の粒が夜空に溶けていくかのように消えていく。

7. ラヴェル

ボレロ(デュオ・2 台 4 手+打楽器:角野・黒沼・齋藤)

小太鼓の一定のリズムが最初から最後まで刻まれ、少しずつ、少しずつ、音が大きくなっていきます。音楽とともに、映像も華やかになっていく様子をお楽しみください。